

令和5年度 自己評価報告書

学校法人 平成国際学園
長崎医療こども専門学校

日本語科

1. はじめに

本校は、学校運営における具体的な方針や対応の決定に関しては、運営陣と各教職員との風通しの良い環境と体制において行なっており、その中で、学校の質の向上及び教育力の向上に取り組んでいます。

本年度は、原点回帰として「教職員による自己評価」を例年以上に深掘りし、結果を基にその背景や原因を分析することとしました。また、学科・部署ごとの重点目標の設定と達成状況の確認を行ない、次回の学生による授業評価及び学校満足度評価や保護者ならびに卒業生からの評価に活かすことといたしました。

それらの結果から学校経営上の問題点を抽出し、改善に取り組み、学生及び教職員の満足度を高め、よりよい教育サービスを提供して、即戦力となる学生を社会に輩出して参ります。

2. 各評価項目について

本年度は以下の区分に分けて評価を実施しました。

本年度の重点目標

(1) 学校全体の重点目標

教育方針及び教育目標に基づき、より職業教育の充実を実践し、次の学習効果を目指す。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。
- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。
- ③学生の中途退学者の低減に努める。

(2) 各学科・部署ごとの重点目標

自己評価

教職員による自己評価

3. 評価結果につて

(1) 重点目標の達成状況

学校全体の重点目標について目標を数値化し、その達成状況を確認しました。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。
定期的に進路指導を行い、進学希望者全員が進学いたしました。

- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。

本年度は日本語能力試験4級以上の合格を目標に掲げて卒業年次の12月の試験まで指導に取り組んできました。

目標として掲げた各学年の合格率は次の通りです。

1年生 35%

2年生 75%

それに対して実績は次の通りです。

1年生 43%

2年生 77%

③学生の中途退学者の低減に努める。

本年度の中途退学者は在籍数の1.5%でした。今後も在籍管理を徹底し、中途退学者を低減させるよう努力して参ります。

(2) 自己評価

教職員による自己評価

専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月 文部科学省 生涯学習政策局)の評価項目に基づいて教職員による自己評価を行いました。問題点として捉える基準を7割(2.8ポイント)に設定し、それを下回る評価項目に関して改善に取り組んでいきます。

※具体的な評価項目と教職員による評価点は、別紙「令和5年度自己評価(日本語科)」参照。

4. 教職員からの意見・要望等への改善について

教職員からの意見・要望等が多くありましたので、来年度の学校運営に向けて、可能な限り改善を図っていきます。

5. 次年度の自己評価について

次年度の自己評価は、PDCAサイクルに基づき、組織的・計画的に行います。

(1) 教職員による自己評価

(2) 各教職員及び各学科・部署ごとの重点目標の設定と評価

6. さいごに

本年度の自己評価は、教職員による自己評価に加え、学科の重点目標を年度初めに設定し、その達成状況を年度末に確認するという手法を取り入れました。本年度の自己評価の結果を学校関係者評価委員会にて審議していただき、学校外部の皆さま方からのご意見をより多く取り入れる事により、学校の資の向上、教育力の向上に取り組んで参りたいと考えている次第です。

以上